

有珠山の火山活動解説資料（平成27年4月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

19日から21日にかけて、有珠山北側山腹のやや深い所（深さ約6km付近）を震源とする微小な地震が一時的に増加しましたが、その後少ない状態で経過しました。また、その他のデータにも特段の変化はみられず、噴火に至る兆候は認められませんでした。

平成20年6月9日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

有珠山は活火山であることに留意してください。

活動概況

・地震及び微動の発生状況（図1 - 、図2～3）

19日から21日にかけて、有珠山北側山腹のやや深い所（深さ約6km付近）を震源とする微小な地震が一時的に増加しましたが、1977年や2000年の噴火前の地震活動とは異なり地震の規模は小さく、地震回数の急激な増加はみられませんでした。また、地殻変動にも特段の変化はみられないため、噴火に至らないと判断しました。今回のような地震活動は2010年11月にも見られており、今後も発生する可能性があります。

上記の期間以外の地震は、概ね山頂火口原直下の浅い所で発生し、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・噴気などの表面現象の状況（図1 - ~ 、図4）

山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上概ね50m以下、西山西麓火口群N-B火口の噴気は今期間観測されず、噴気活動は低調に経過しました。

・地殻変動の状況（図5～6）

GNSS連続観測¹⁾では、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

なお、大有珠を挟む基線では、1977年から1978年にかけての噴火後の山体収縮と推測される地殻変動が続いています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

2) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

今回の火山活動解説資料（平成27年5月分）は平成27年6月8日に発表する予定です。

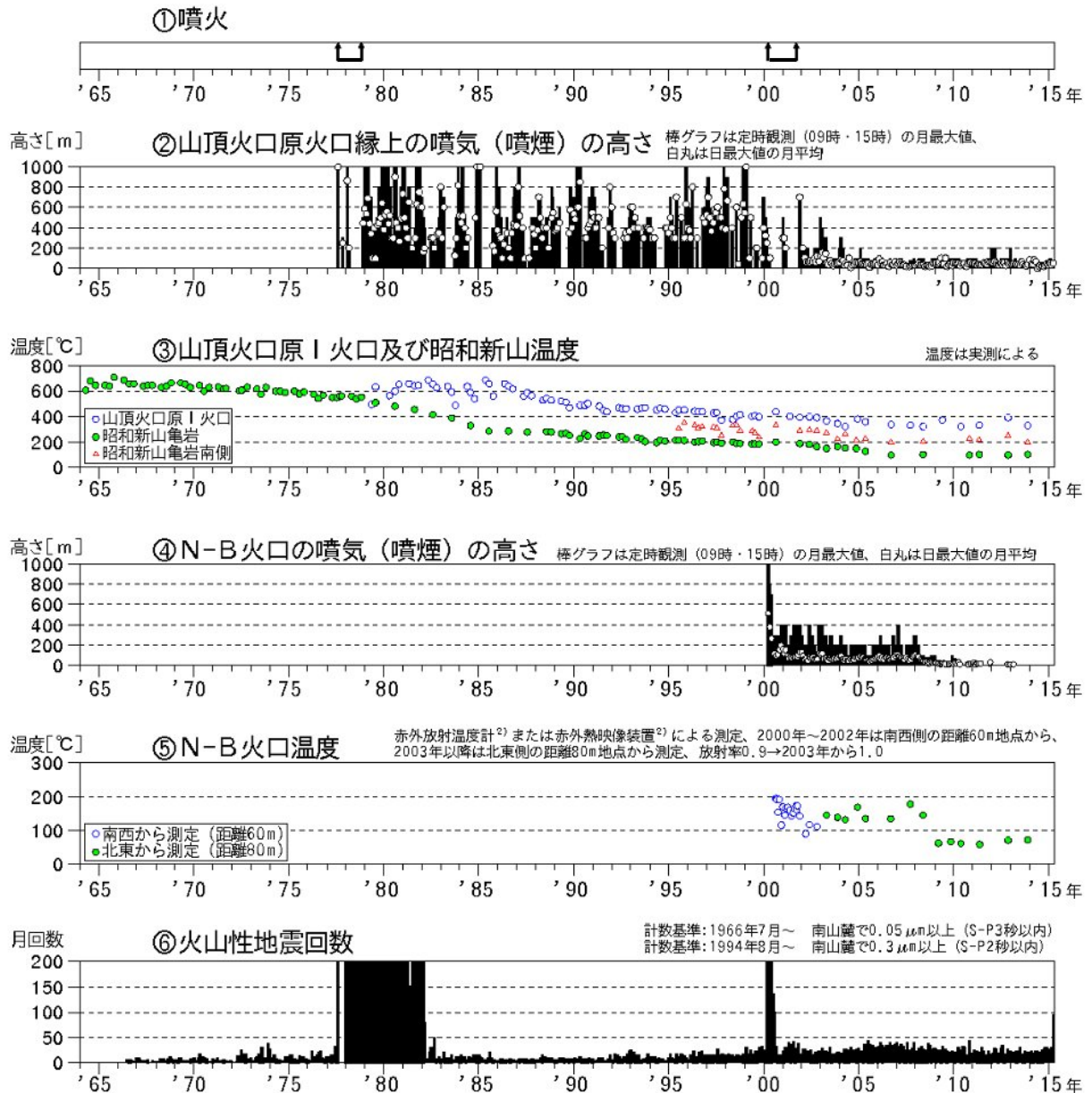


図1 有珠山 火山活動経過図（1964年1月～2015年4月）
印で挟まれた期間は噴火活動期を示します

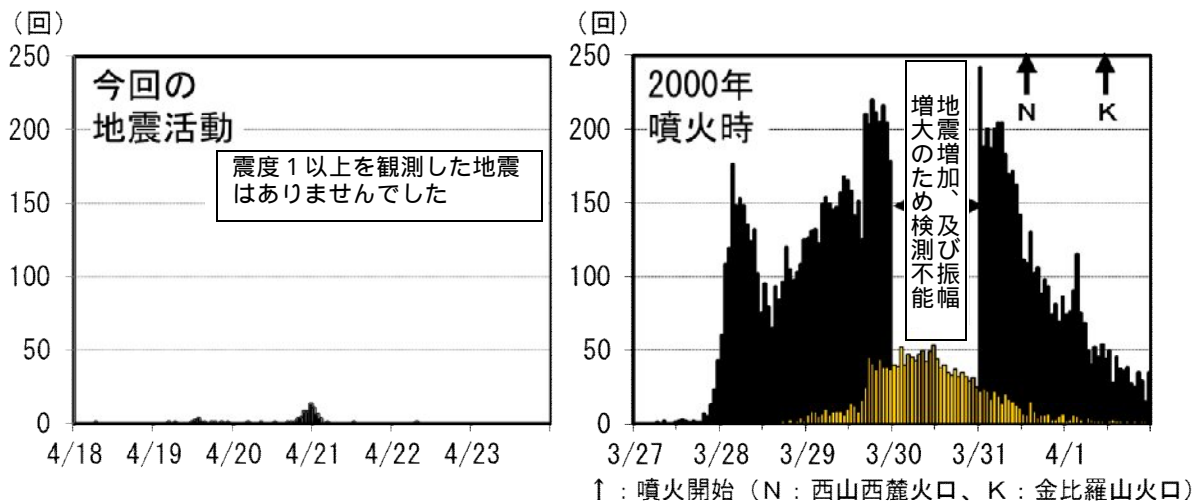


図 2 有珠山 火山性地震の発生状況（特別地震回数）
 （左：2015 年 4 月 18 日～23 日、右：2000 年 3 月 27 日～ 4 月 1 日）
 黒の棒グラフ：計測基準以上の地震の回数を示しています
 黄の棒グラフ（右図）：震度 1 以上を観測した地震の回数を示しています

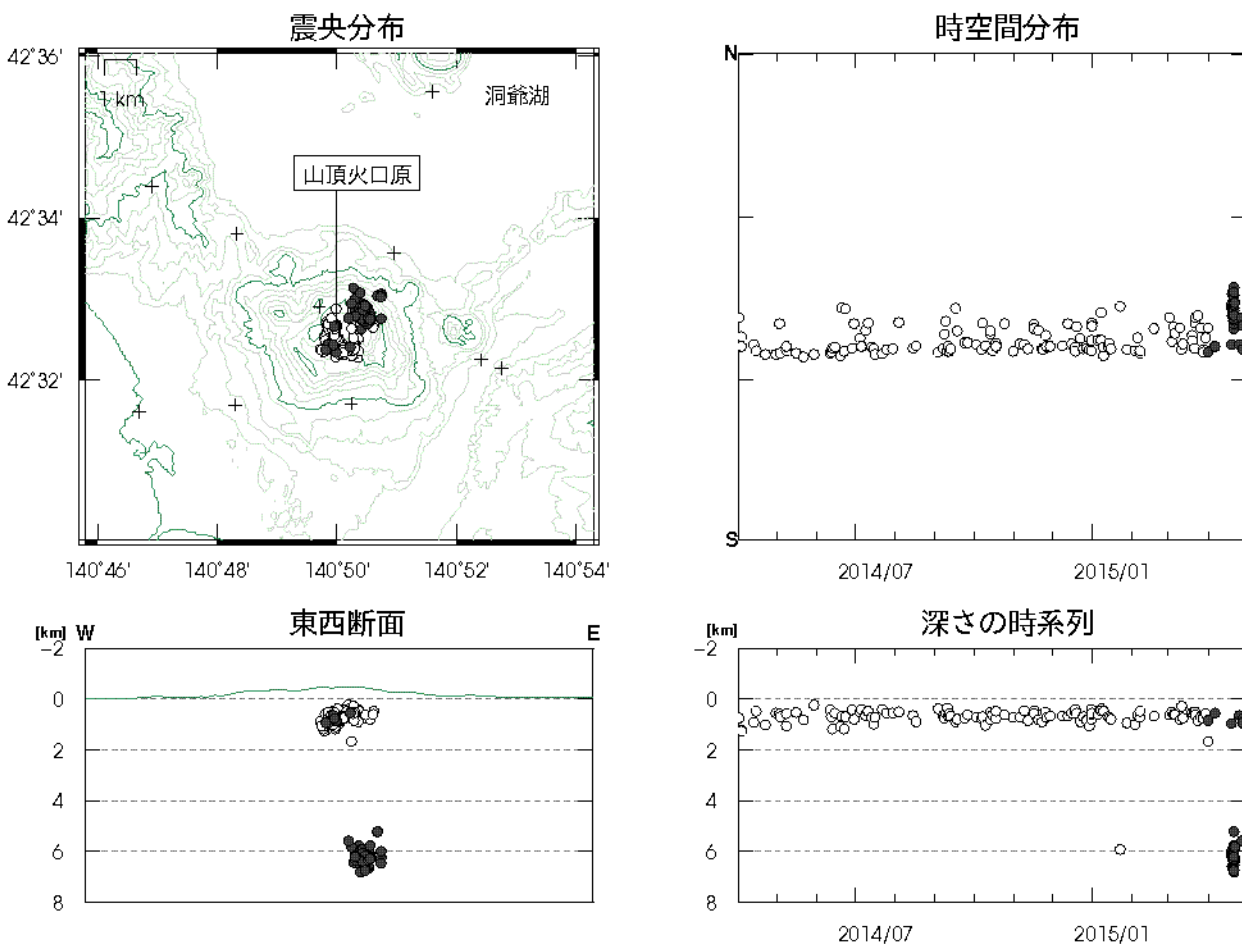


図 3 有珠山 火山性地震の震源分布（2014 年 4 月～2015 年 4 月）
 印：2014 年 4 月～2015 年 3 月の震源
 印：2015 年 4 月の震源
 + 印：地震観測点



図 4 有珠山 北西側から見た山体の状況（4月2日、月浦遠望カメラによる）

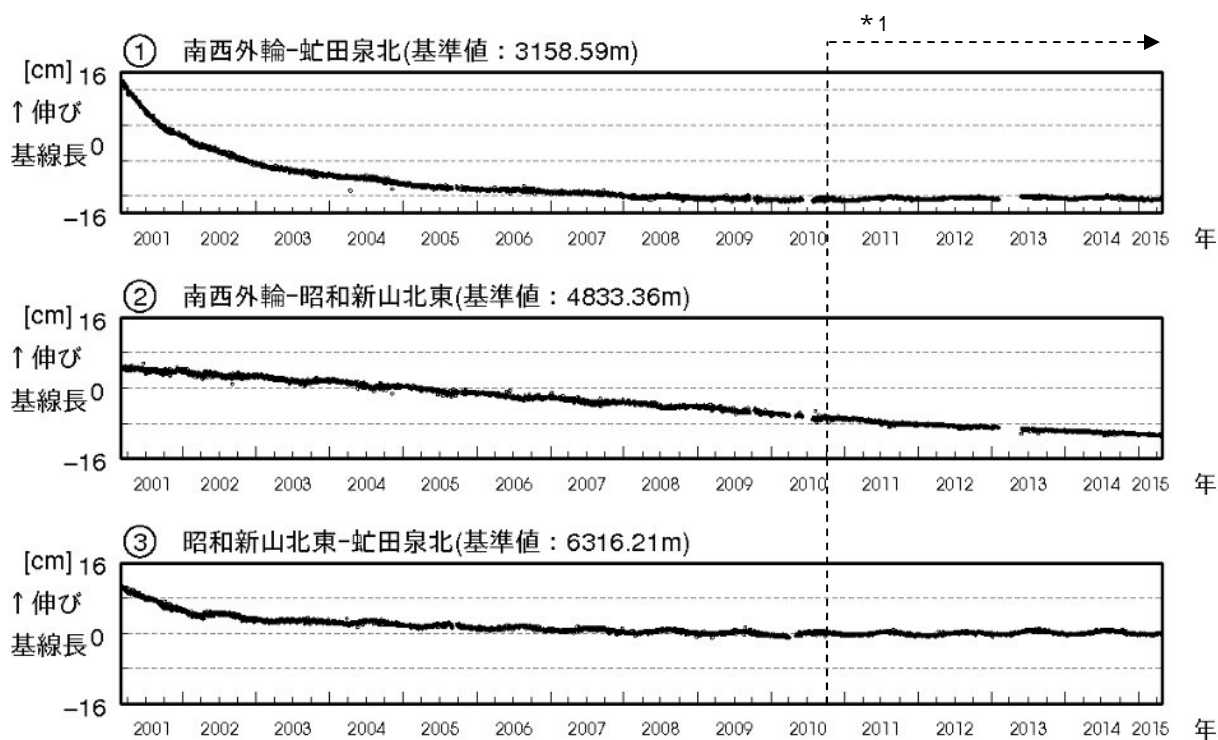


図 5 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2015年4月）

- ・ GNSS基線 ~ は図 6 の ~ に対応しています
 - ・ GNSS基線の空白部分は欠測を示します
 - ・ 2000年の噴火後の収縮は見られなくなっています
 - ・ の基線では、1977-78年の噴火後の山体収縮と推定される変動が続いています
- * 1 : 2010年10月以降のデータについては、解析方法を改良して精度を向上させています

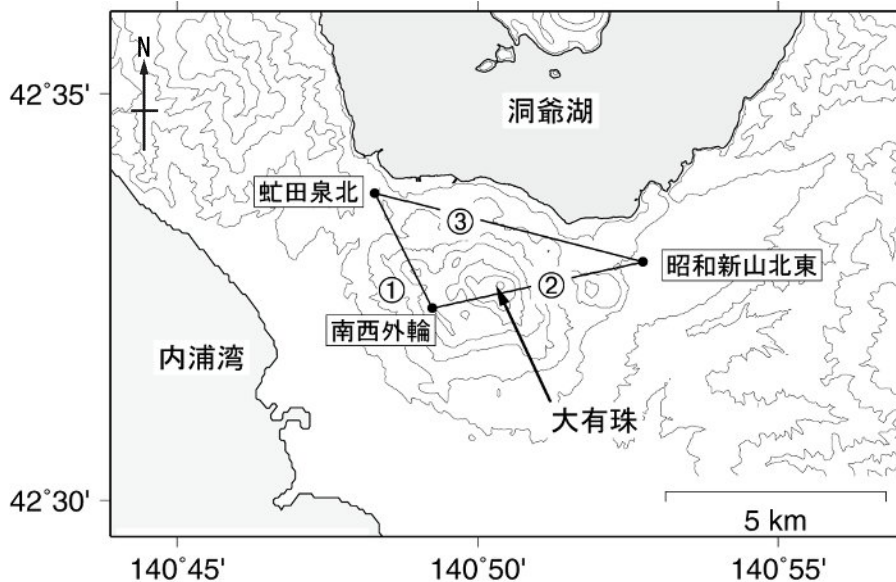


図 6 有珠山 GNSSS連続観測点配置図

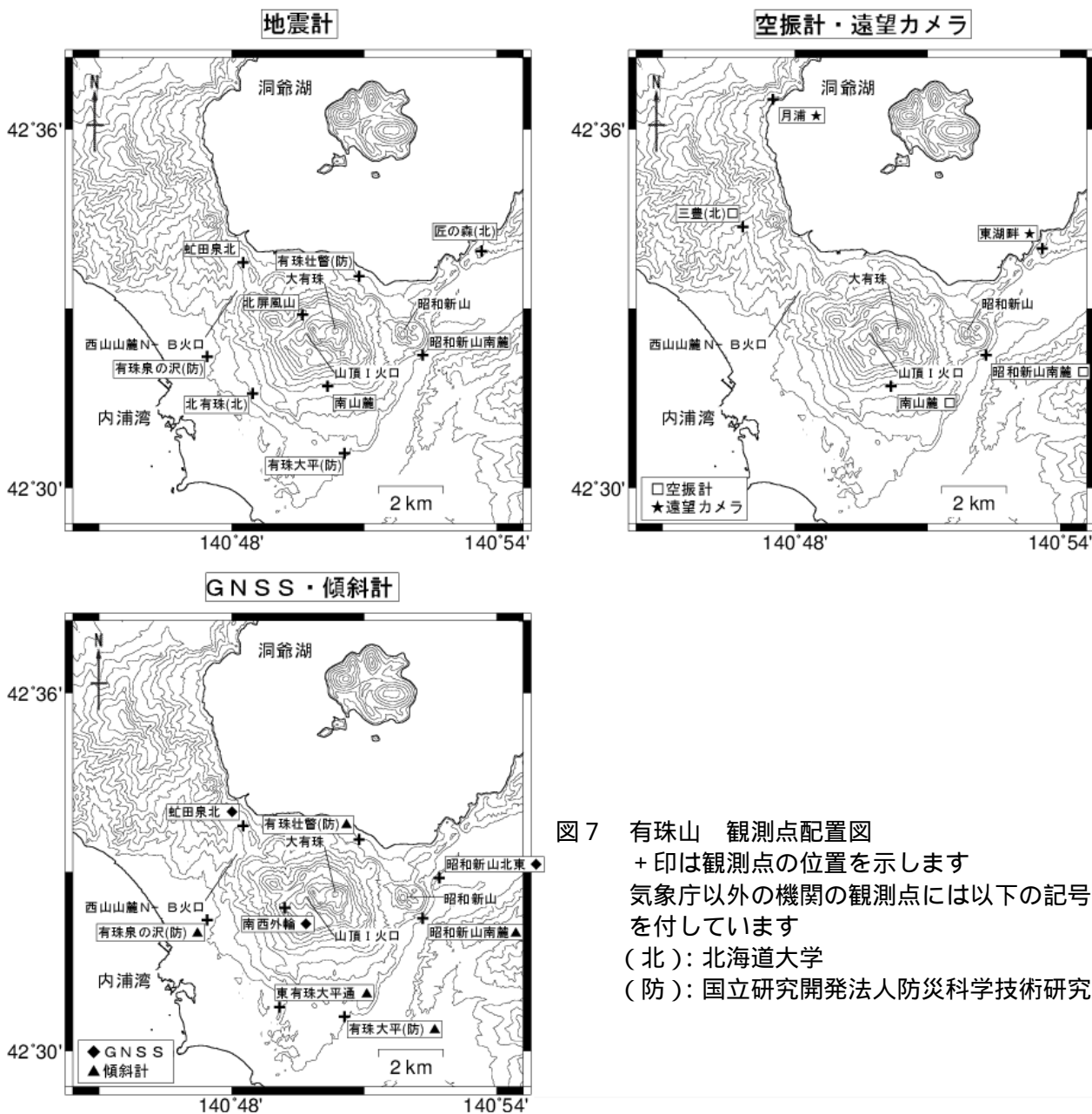


図 7 有珠山 観測点配置図
 + 印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北): 北海道大学
 (防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所